

第3回三泗地域医療構想調整会議 概要

医療提供体制の方向性について

- ・ 流出入に関して、がんの場合、急性期と緩和ケアを分けて分析する必要がある。
- ・ 羽津医療センターについて、「急性期機能にかかる一定の役割を果たしている」と書かれているが、海蔵川より北の北部四日市では一定以上の役割を果たしている自負がある。急性期が3病棟あるが、75%ぐらいの稼働率で、急性期医療にも貢献している。

4月に包括ケア病棟を開設したのは、高齢者の増加や国の動きを先取りということで、県に貢献するという形で45床を回復期にした。

今の病床機能をこれから先も続けていくつもりは全くない。周辺の流れを見ながら、こういう会議を通して議論して変えていくべきだとは思っている。

しかし、この県提案を病院の医師や看護師が見たら、やめてしまう。大学の教授が見たら派遣をやめるかもしれない。簡単に書かれては困る。

三泗区域の病院でこれから検討していくと書いたらよいが、名指しで書かれるのは非常に困る。この資料は回収してほしい。

県には、現状の体制でしばらくいきたい、急性期を全部移す気はないと伝えた。

急性期医療を全部渡してしまえば、研修医や大学からの医師派遣もなくなる。一定程度とはどういうことか。

- ・ 羽津医療センターの看護師をしているが、地域包括ケア病棟と同時にハイケアユニットも作っている。救急を充実していこうという考えもある。地域に根ざして、一定の急性期も頑張っている。

このように書かれるのは救急車の受入れ件数が原因ではないか。輪番制に関して、市立四日市病院のERが整備されて以降、前と同じようにやっているが、もっときめ細やかな体制をとればよいのではないかと思っている。

- ・ 市立四日市病院は、高度医療と救急医療に重点を置いている。1晩で医師10名が当直している。医師の数や市立病院という性格上、救急は当院が責任を持って使命としてやっていかないといけない。

規模の違いや診療科も考慮し、どういう救急をどういうスタンスでやるかをこの場で議論すればよい。

- ・ 輪番制を前と同じようにするのではなく、市立四日市病院でなくてもいいケースは羽津医療センターでというように、市立四日市病院を一つ上に置いてという形をとったらどうか。

- ・ 県立総合医療センターは、救急車受入件数に関して、応需率90%以上を維持できるかどうかというところ。なかなか医師の確保ができない。応需できないケースは、病床がいっぱい、担当医師が他の救急に当たっている、といった理由である。

もし将来県の提案のように受けていかなければいけないとなれば、10年かけて施設・スタッフの体制を組んでいかなないと引き受けられない。現在、羽津医療センターに受けてもらっていることで患者さんの利益になっている。

将来、各病院が十分な人材・施設と、県が救急の策を講じてもらえれば、うまく

いくのではないか。

- ・ 日常の安全安心を確保しているのが救急であり、それを一つでも多くの医療機関が担うというのは我々の使命である。今後の課題は調整会議で議論していくこととし、一つの医療機関に限定して名前を挙げるというのはどうか。
- ・ 病床機能を変えることは医師の確保に関わる。医師の確保に努力しているが、そういうことを考えずに勝手にやると、結局医師の数が減っていい医療ができなくなる。その辺りも配慮されたい。
- ・ 救急医療に関して、各病院の機能を考えた応需体制を4病院で、医師会長も含めて真剣に議論すればよくなるのではないか。常に曜日で分けるのが地域のためか。
- ・ 四日市は連携が取れている。3つの病院を統合する桑名市総合医療センターの完成後、桑名市の救急医療が完結するには恐らく5～6年かかるだろう。完結するまでは、四日市は北の方も向いて救急を考えていかないといけない。羽津医療センターは比較的北に近い。県立総合医療センターに移管していくというのは白紙撤回がいいのではないか。
- ・ 事務局が出したら病院と合意できていると考えるので、資料を出す場合は注意してやってほしい。
- ・ まだ十分吟味されていない内容なので、個別の医療機関名は出さない方がいいのではないか。現状の救急のあり方を十分議論して方向性を決めていく方がいい。この段階では拙速な結論の出し方である。
- ・ 急性期と慢性期に関しては今後検討していく必要はあるが、病院の名前は挙げないで、急性期病院がお互いに協力し合って話し合っ進めていくという形がよい。
- ・ 菰野厚生病院について、回復期機能の充実と書かれているが、今の回復期病棟のさらなる充実ということなのか、急性期を削って回復期にということなのか。今の回復期の機能を上げるというのは賛成だが、急性期病棟を回復期にするのは死活問題である。回復期ばかり増やせば、いなべ総合病院との連携もできない。医師の確保も考えて書いてほしい。

県提案については回収し、後日修正を行うこととなった。

- ・ 県内の保険加入者の約20%が三泗区域在住であり、非常に重要な地域である。加入者にここでの議論をどれだけ承知してもらえるか。12月に約1500人を抽出してアンケートを取ろうと考えている。また結果を報告したい。県や市町も各地域で住民に周知をしてほしい。
- ・ 今後は、事前に話し合いができる場を持ってもらえると有難い。
- ・ この会議の進め方に関して、今後、医師会の中で、あるいは各病院が議論してから調整会議に出席できるようなタイミングで事前に資料を配ってもらえるよう、考慮をしてほしい。
- ・ 地域医療構想と在宅医療の推進は車の両輪のようなものと考えている。両方が整合性を取りながら、いい方向に進めていってほしい。